

2024. 3. 16 セラミックアートセンター-星空観察会

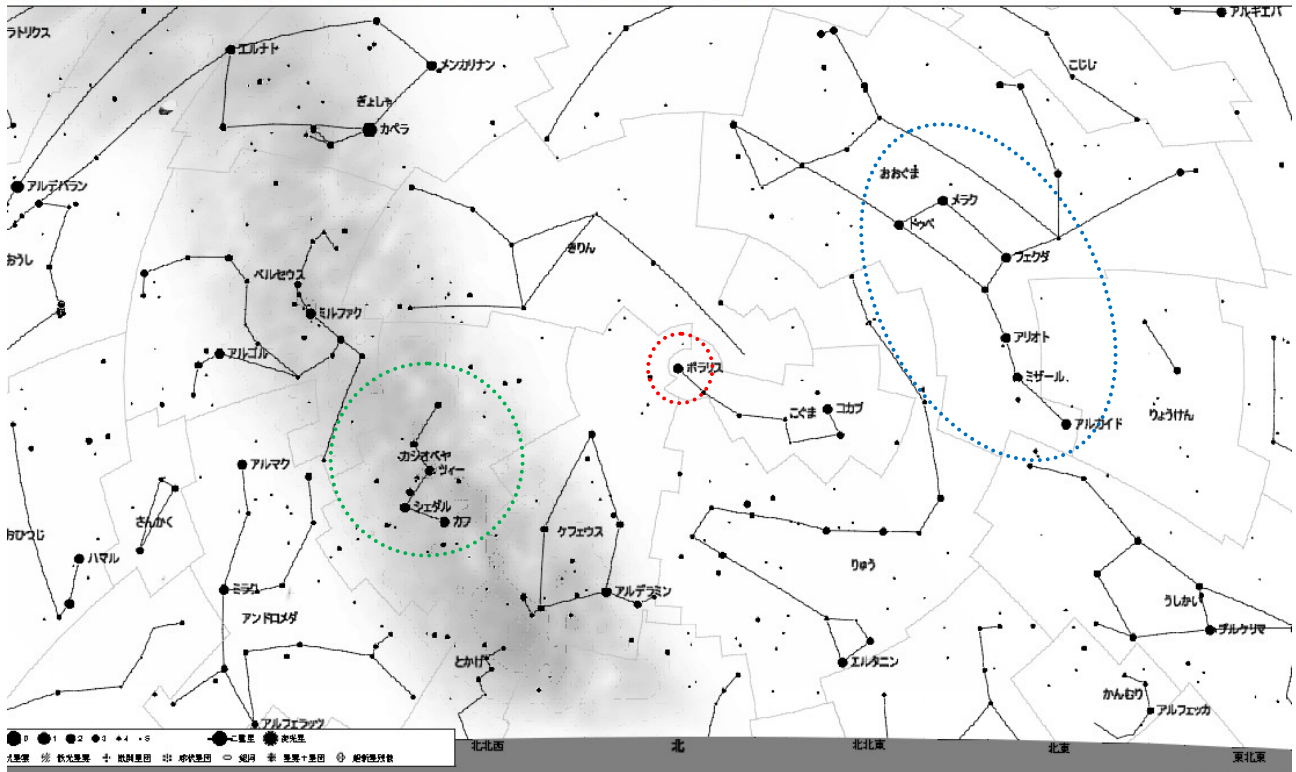
# テーマ「北斗七星とカシオペヤ座」

by みんなの星空☆えべつ

★3/16 20:00のセラミックアートセンターの星空 ～ 北極星周辺の星空



AD 2024/03/16 2000:15 JST 月齢6.1 ■場所: 141°31'59.7"E 43°06'12.3"N 39m ■限界等級: 5.2等

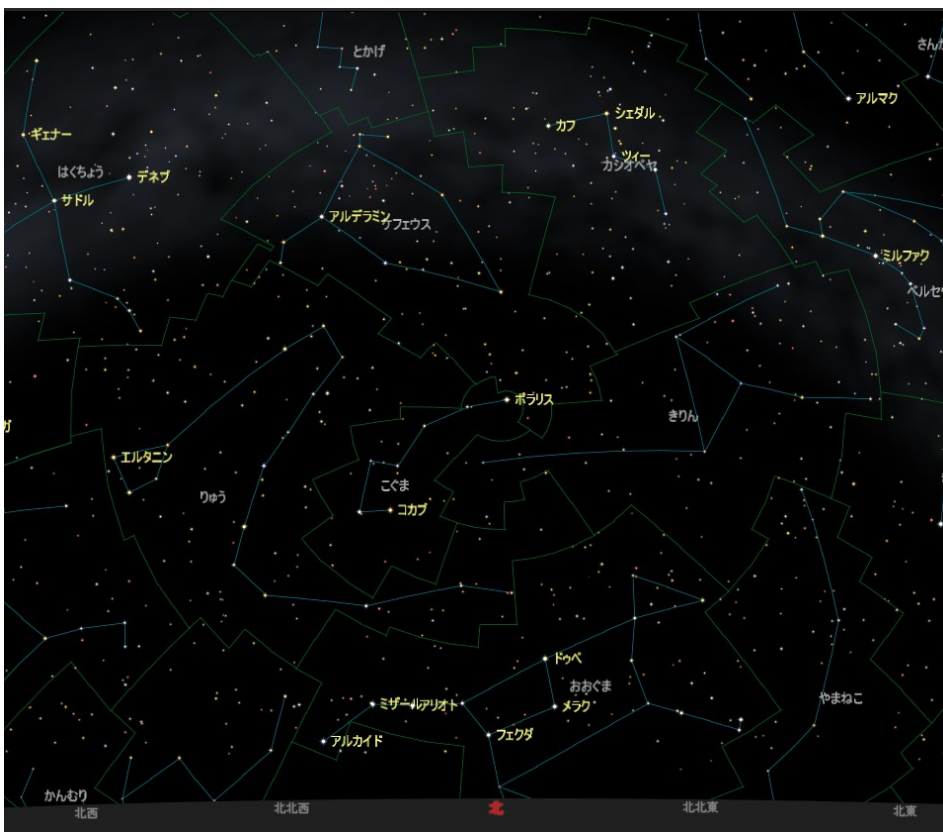


★北極星 **ポラリス** をはさんで右に **北斗七星**、左に **カシオペヤ座** が見えています。

★北斗七星とカシオペア座は、周極星座（地平線に沈まない星座）です。  
 ～観察地の緯度により変わります。江別（北緯43度）での話



2024.3.17  
 深夜 午前1:00



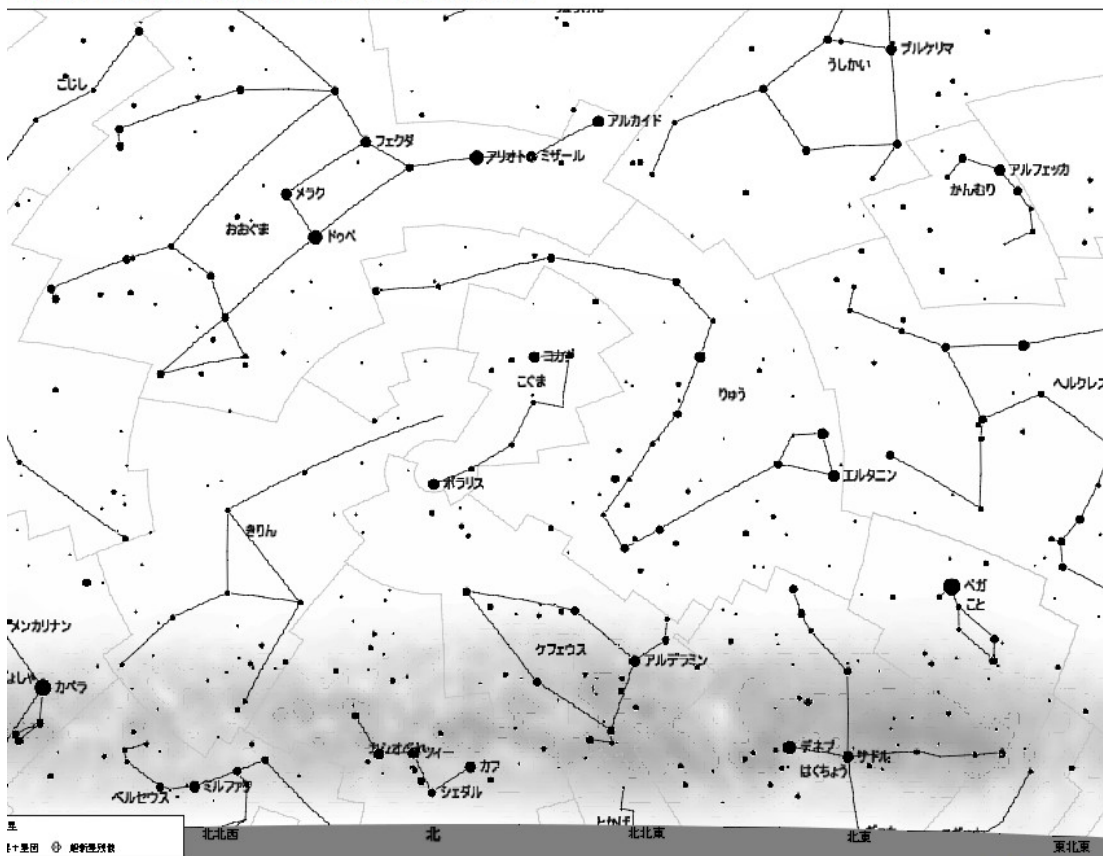
2024.3.17  
 昼間 11:40

★高崎市（北緯36度）は、北斗七星やカシオペヤ座が周極星座でいられる限界



桜と北の星ぼし（北斗七星、こぐま座） 当館職員 撮影

■場所: 139°03'00.7"E 36°19'36.4"N 39m ■限界等級: 5.4等



## ★北斗七星（おおぐま座）

**おおぐま座**（おおぐまぎ、大熊座、Ursa Major）は、北天の**星座**で、**トレミーの48星座**の1つ。

おおぐま座の一部としては腰から尻尾にあたる7つの星は、日本では**北斗七星**と呼ばれ、さまざまな文明でひしゃくやスプーンに見立てられた。β星とα星の間隔を約5倍すると、だいたい**ポラリス**（現在の**北極星**）の位置になることから、世界的に旅人や航海者にもよく使われた。

また、**ミザール**（ζ星）と**アルコル**（g星）の**二重星**は、アルコルとミザールの見かけの位置が近かったため、13世紀以前のアラビアでは視力検査に使われていた<sup>[2][3]</sup>。

### 主な天体 [編集]

#### 恒星 [編集]

「**おおぐま座の恒星の一覧**」も参照

6つの2等星があるが<sup>[4][5][6][7][8][9]</sup>、全て北斗七星に集中しているのも特色で、熊の胴体を構成する星は、全て3等星以下となっている。以下の北斗七星の7星のうち、δ星以外は全て2等星である。

- α星：ドゥベール<sup>[10]</sup> (Dubhe<sup>[11]</sup>)
- β星：メラク<sup>[10]</sup> (Merak<sup>[11]</sup>)
- γ星：フェクダ<sup>[10]</sup> (Phecda<sup>[11]</sup>)
- δ星：メグレズ<sup>[10]</sup> (Megrez<sup>[11]</sup>)。北斗七星で唯一の3等星<sup>[12]</sup>。
- ε星：アリオト<sup>[10]</sup> (Alioth<sup>[11]</sup>)
- ζ星：ミザール<sup>[10]</sup> (Mizar<sup>[11]</sup>)
- η星：アルカイド<sup>[10]</sup> (Alkaid<sup>[11]</sup>)
- 80番星：アルコル<sup>[10]</sup> (Alcor<sup>[11]</sup>)。ミザールと二重星を成す。

ウィキペディアより

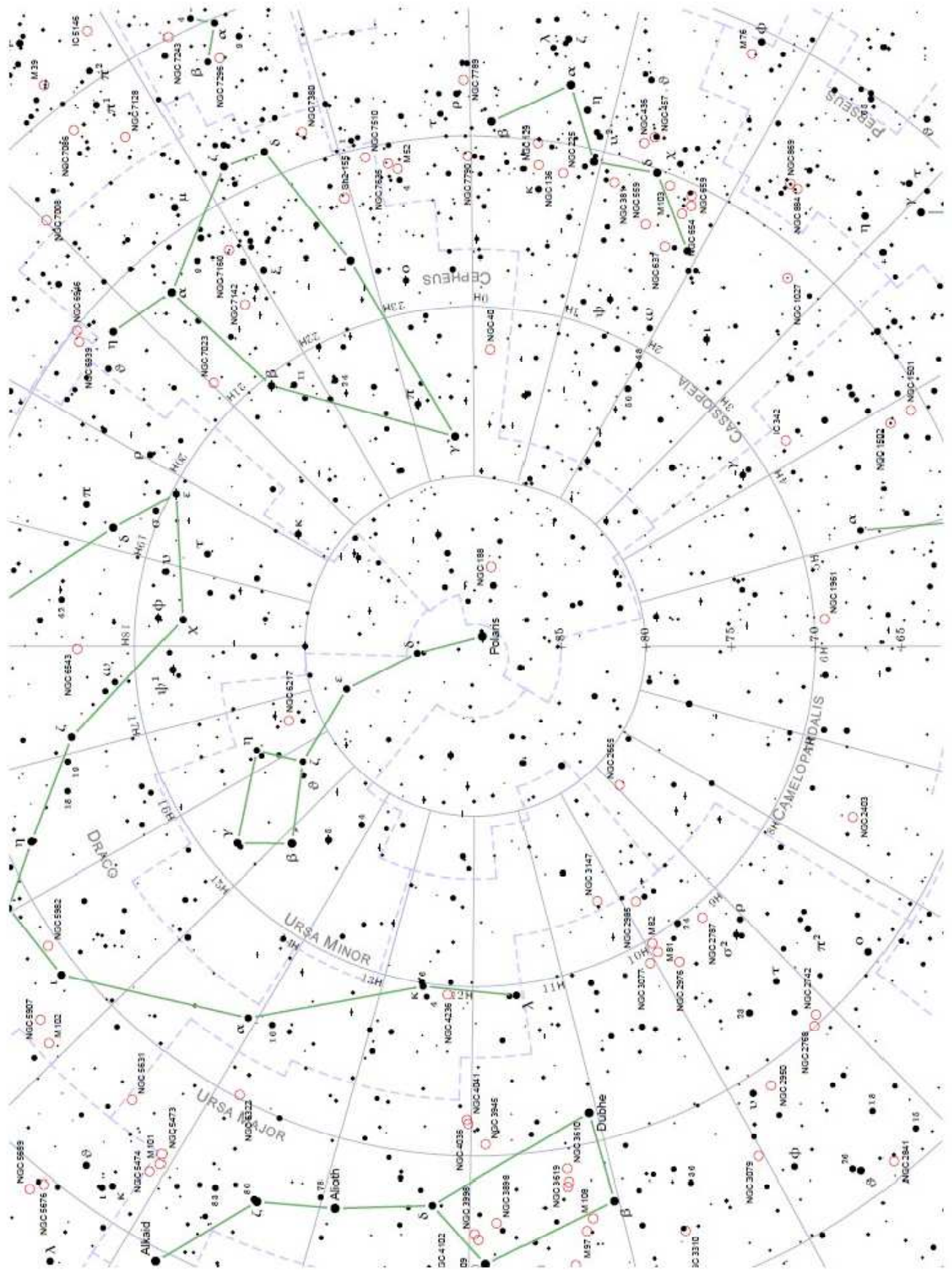
## ★カシオペヤ座

**カシオペヤ座**（カシオペヤぎ、ラテン語: Cassiopeia）は、**現代の88星座**の1つで、**プトレマイオスの48星座**の1つ<sup>[7]</sup>。古代ギリシアの伝承に登場するエチオピアの王妃**カッシオペイア**をモチーフとしている<sup>[8]</sup>。3個の2等星と2個の3等星が、ラテン文字の**W**の形に並ぶ姿で知られる。このW字は、**天の北極**を探すための**指極星**として用いられる。北緯44°より北の地域では、星座全体が地平線に沈むことのない**周極星**となる。

星座名の正式な**日本語**表記は「**カシオペヤ**」と定められているが、いくつかの**国語辞典**では見出し語を「カシオペア座」とするものもある<sup>[9]</sup>。

ウィキペディアより

★北斗七星とカシオペア座周辺の星図です。



Magnitude: 0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0 7.0

Chart 1: Declination North of +65°

★ポン・ブルックス彗星が3月中旬～4月中旬に見頃をむかえます

### ポン・ブルックス彗星 (すいせい)

70年ぶりに接近中の彗星で、3月～4月ごろ夕暮れ直後の西空の低いところに見えます。双眼鏡や小型望遠鏡を使って観察できる予報です。

太陽が沈んでから1時間後くらいの頃に、北西～西の低い空を、双眼鏡などで探してみましょう。

3月中は、アンドロメダ座の2等星「アルフェラツ（秋の四辺形のひとつ）」や「ミラク」、おひつじ座の2等星「ハマル」（下の図を参照）が、大まかな目印になってくれます。4月初めには、ひときわ明るく輝く「木星」の近くに見えています。



ポン・ブルックス彗星 (12P) 2024年3月～4月初めの位置

4月には4等級まで明るくなると予想されています。天の川が見えるような場所で低空まですっきり晴れていれば、肉眼でもポン・ブルックス彗星の淡い光芒を見つけられるかもしれません。

高崎市少年科学館より

- 西の空地平線まで開けている場所で木星を目印に双眼鏡で探して見てください。4～5等級なので肉眼では無理かもしれませんが、デジタルカメラで撮影すると意外と写りますよ。スマホカメラでも挑戦してください。次回の接近は、2095年8月10日です。71年後です・・・。